

北海道総合都市交通体系調査協議会
令和3年度（2021年度）第2回協議会

議 事 録
(要 旨 版)

日 時：2022年1月28日（金）午前10時開会
場 所：第二水産ビル 3階 3S会議室

北海道総合都市交通体系調査協議会 令和3年度(2021年度)第1回協議会
《 議事録 要旨版 》

日 時：令和4年(2022年)1月28日(金) 10:00~12:00

場 所：第二水産ビル3階 3S会議室(札幌市中央区北3条西7丁目)

構成員：別表1による17名

報道関係者：株式会社北海道建設新聞社、株式会社建設行政新聞社

株式会社北海道通信社

1. 事務局報告および説明

事務局より、開会挨拶

2. 議題 函館圏の都市交通マスタープランについて

事務局より、資料1~資料4を説明

資料1:『今年度のスケジュールについて』

『各会議における意見、検討事項及び対応方針について』

資料2:『将来交通需要予測等について』

資料3:『函館圏の都市交通マスタープラン(概要版)』

資料4:『函館圏の都市交通マスタープラン(素案)』

議題について、主な委員の発言内容と事務局回答(○委員の発言 ■事務局回答)

1. 開 会

○ 委員(座長)

資料1では、これまでのスケジュールや各地区検討会等での意見、資料2では、その中でも出されておりましたトピックについてまとめております。まず、資料1と2について、ご質問やご意見があったらお願いしたいと思います。特に資料2については、時間別配分や中間年次の人口、人間研以外の人口ビジョンについて検討されています。

それでは、私から伺いますが、今日の資料2について、中間年次や時間別配分といった事柄について、成果物としてはどのような形でまとめられるのですか。

■ 事務局

今のところ、ケーススタディーとして算出しておりますので、資料編にて今後の事業や施策に役立てる方向で考えています。

○ 委員(座長)

資料1と2について、皆様もご不明な点等もあると思いますが、いかがでしょうか。

○ 委員

時間帯別の交通解析は、これから導入しなければならないと考えました。今、交通渋滞の問題がなくなるぐらい人口が減っていますが、それに対して時間帯で見るとクリティカルな道路区間があるため、そういうところを示さないと、今後の道路の計画を立てるにはミスリーディングな政策が出てくると思い、導入をお願いしたところです。

そこで質問ですが、資料2の15ページは、これまでの日配分をやっている結果であり、17ページの1時間ピークの時間帯を見ると、混雑が起こっている場所が異なっている感じがします。これは時間帯で見たほうが直観に合う混雑影響が出ているのかをお聞きしたいと思いました。

○ 委員(座長)

17ページ、18ページに7時と10時の時間帯別の混雑度、その他、日交通量での混雑度が出ていますが、五稜郭周辺を囲むように赤が増えているというような感じがします。現実の感覚と比べていかがでしょうか。

○ 委員

赤のエリアについては、大体想定しているとおりと感じており、五稜郭から函館山側については混まないというのは大体想像がつくのですが、五稜郭から扇状に広がる外側のエリアはもう少し赤のエリアがあってもいいという感じは受けました。ただ、将来はこういう形になると考えると、そんなに想定外ではないという感じはします。

○ 委員(座長)

もう少し赤が拡大しているイメージというお話です。今はR3、R4のイメージですが、17ページについては、R17であり、人口も減っているだろうということで、今より改善されるのではないか、ということかもしれません。

○ 委員

現状、道路の規格に応じた信号現示の差は入っていないと聞いており、そういうところをもう少しやると、直感に近いようなところが出ると思います。あとは、外環状のところの日配分をやると混雑が出ますが、ピークで見るとそうはなっていないのかと思っていたので、より現状に近いようなものが出ていたと思いました。

○ 委員(座長)

時間帯別配分の比率は、PTの調査から起こしているものですか。

■ 事務局

基本的には、予測の段階でも時間帯をある程度考慮するような形になっており、センサデータを使用しているわけではなく、PTからつくり上げたものでやっておりません。

○ 委員(座長)

他に何かありますか。

○ 委員

ワーキングで議論したことが反映されていると思いました。

一度ワーキングで、時間帯別の配分ではなくて一般的なところの混雑の議論をしたときに、函館市はウォークブルエリアを推進したいということから、このデータを函館駅周辺は混雑がないからどんどん進めていいのではないかということがありました。それは、地区検討委員会でもコメントされていたと思いますが、そういう見方もできると思います。

○ 委員(座長)

パーソントリップ調査というのは、少し前まで人口拡大や交通量の増加に対してどのように道路をつくっていくかということを考え、まずは日交通量ベースでやるという原則がありました。ところが、人口減少の時代になりますと、時間帯別での不確実性というか、局所的な状況も考えた上で対応していくという、雪害や災害等も含めて、状況を合わせて視点を変えていかなくてはならないと思います。

非常に重要なご指摘であり、ウォークブルエリアとの接続の関係にも使えるというお話がございました。

資料1と2について、ほかにご質問やご意見はありますか。

(「なし」と発言する者あり)

○ 委員(座長)

それでは、資料3が概要版、資料4が本編となっております。

これについていかがですか。

○ 委員

資料3の9ページの参考の免許返納のグラフです。これは、私も興味があってデータを調べてみましたが、この図は正確に表示されていないと思います。例えば、R1で65歳や75歳の記載がありますが、全て「以上」がつくものです。水色のところですが、これが65歳以上ですので、85歳以上の方の免許返納率が反映されている数値になります。黄色のところは75歳以上です。緑のところは85歳以上になっていまして、かつ、その年齢階層ごとの免許返納率を足し上げると、R22には7割近くの方が返納するように見せるようなつくり込みになっていますが、これは、それぞれ違う棒グラフにしておかないと、おかしい図になると思います。

R22時点での免許返納率は、65歳以上の方で見ると8.7%であり、これを縦に足し上げるとおかしいことになりますので、ご確認いただきたいと思います。

R1での65歳以上の免許保有者に占める85歳以上の免許保有者の割合は3.5%くらいしかありません。85歳以上の方の免許返納率が高いのは事実ですが、返納したとしても65歳以上の返納率が伸びていかないというのは、もともと85歳以上の方が少ないことを表しています。ですから、そういう正しい情報が読み取れるようにこのグラフを直していただきたいと思います。

○ 委員(座長)

事務局に確認ですが、今の65歳と書いているのは、65歳以上で上限なしという理解が正しいですね。そうすると、足し算するのはおかしく、比率を足し算するのは危険な行為でもありますので、今ご指摘いただいたように表現を直していただきたいということだと思います。

■ 事務局

了解いたしました。棒グラフを横に並べるなど、工夫したいと思います。

○ 委員(座長)

ほかにかがですか。

○ 委員

この後のパブコメについてですが、パブコメの際に公表する資料は今日の資料4ということでしょうか。3は、あくまでも本日の説明用ということですか。

■ 事務局

おっしゃるとおりです。

資料4と、一般の方にもう少し分かりやすいように概要版を添付してパブリックコメントに臨みたいと思っています。

○ 委員

その概要版は、資料3ではないということでしょうか。

○ 委員(座長)

概要版のイメージをお示しします。

○ 委員

分かりました。本編と概要があって公表されるということですね。

○ 委員(座長)

そうです。今、共有しているものです。

○ 委員

細かいところで大変恐縮ですけれども、資料4の97ページを見ていただきたいと思います。ここに施策3の高齢者を中心とした交通対策という項目がありますが、緑のところ免許返納高齢者の増加が将来は予測されますということに対して、その下のピンクのところ施策メニューが幾つかあると思います。この三つ目に免許返納の促進というのがタイトル的に出てくるのですが、これについては、免許返納が予測され、そういった中でも高齢者の移動手段が確保される地域をつくるということかと思いますが、この表現だけを見ると、免許の返納を促すというタイトルに見えると思います。

そして、その下に矢印で運転免許自主返納者へのサポートの充実と書かれているので、この下の表現をそのまま施策メニューとしたほうが良いと思います。返納が目的だと思われるように、「免許返納の促進」という文言をなくして、その下の表現のほうが良いのではないかと思います。

○ 委員(座長)

整理させていただくと、将来予測に免許返納高齢者の増加とあり、下に返納の促進とあるが、これをどうしたらいいというお話でしょうか。

○ 委員

促進させるのが施策ではなくて、増えることに対しても高齢者の移動が確実に確保される社会をつくり、サポートを充実させるというのが施策かと思うので、「免許返納の促進」という言葉は要らないのではないかと思います。

○ 委員(座長)

高齢者で返納される方が多いが、そういう中でも足を確保する、あるいはサポートするというイメージを出すべきだということですね。いかがですか。

■ 事務局

ご提案のとおり、サポートの充実というのは、施策6と連携して実施すべき内容となっていますので、表現方法を検討させていただきます。

○ 委員

単純にマスタープランに促進させるということタイトル的に書いてしまうのは違うと思いました。あくまでもその下のサポートの充実がマスタープラン上で出てくる施策ですから、不要な表現と思ったところです。ご検討いただければと思います。

○委員(座長)

この件に関しまして、オブザーバーの北海道警察さま、いかがですか。
ここで明示的に促進という課題を挙げるのではなく、警察ではいろいろと促進策を実施しているのですが、促進しても大丈夫な状況にするのが交通施策ではないかというご意見ですが、いかがですか。

○ オブザーバー

免許返納の促進自体は、警察としても大変ありがたい施策ではありますが、この中で記載すると、確かに趣旨から外れてしまう気もします。あくまでも返納した方のサポートの充実ということで構わないと思います。

○ 委員(座長)

これについては、検討させていただくということによろしいですか。

○ 委員

ありがとうございます。

○ 委員(座長)

ほかにいかがですか。

パブコメに供する概要版については、皆さんに送付されていますか。

■ 事務局

本日出来あがりますので、後ほど情報提供いたします。

○ 委員(座長) ほかはいかがですか。

(「なし」と発言する者あり)

○ 委員(座長)

先ほど、画面共有していただきましたパブコメに供する概要版についても、近日中に委員の皆さんに送っていただけるということでございます。これも踏まえて、細かい点でも結構ですので、こうしたほうが良いというご意見がいろいろ出てくると思いますが、いつまでに修正意見があれば対応できますか。

■ 事務局

今日、もしくは月曜日に送りまして、2月1日くらいを目途に集約したいと考えております。2月1日を過ぎてからご意見いただいたものについても反映できますが、1日には正式に関係各所へ情報提供したいと考えております。

○ 委員(座長)

あまり日がないようでございますが、お気づきの点については、来週の半ばというイメージでいいですね。その間に修正点等があればお願いしたいということでございます。それらについては、事務局と私のほうに一任していただくということよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○ 委員(座長)

では、そういう形にさせていただきたいと思います。議事としては以上でございます。連絡事項等はございますか。

■ 事務局

今後の予定ですが、何度かご説明したとおり、来月の2月8日火曜日から3月9日金曜日まで、パブリックコメントを行う予定でございます。

3月25日に予定しております第3回目の協議会にて、パブリックコメント結果を踏まえた都市交通マスタープランの最終案をお示しする予定としております。

ご出席を賜りますよう、何とぞよろしくお願いいたします。

以 上